

Voices

ヴォーリスだより



- 特集 -

2022年11月1日新病院開院しました。

巻頭言

「新病院での新たな一歩」

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリス記念病院
院長 五月女 隆男



Vol. 159

2022年11月発行
【新病院記念号】

基本理念

キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を、医療を通して実践します。
- 私たちは、基本理念を大切にします。 -



「新病院での新たな一歩」



院長 五月女 隆男

秋も深まりつつある11月を迎えいよいよ当院は新築移転をいたしました。患者様にとりましては利用しやすい環境となることを切に願い、さらに充実した療養生活を送っていただけるよう職員一同今後も努力してまいります。

今回の病院新築移転に伴いましては多岐にわたるご支援をいただき感謝申し上げますとともに、構想から5年強を要したこの事業を思い返してみたいと思います。旧病院別館に至っては築50年、本館は築31年を経ており、その老朽化が現在の新医療基準に追いつけなくなったことから建て替え案が生じました。とくにIT技術満載の医療は可視的部分だけではなく、ネットワーク構築や新しい画像診断装置も必要とされるため改築、増築では対応できないとの意見に達するまでに約2年を要しました。この間、何枚もの設計図が描かれ、ストロングポイントとウィークポイントが議論されたことは記憶に新しいものです。そのさなか2019年にのちに新病院が建築される市有地を入手できることとなり、計画は大幅に修正されることとなりました。計画がほぼ振り出しに戻ったときには日々頭痛との闘いであったことはいまでもありません。水郷に面する田んぼの真ん中の土砂の積まれた雑草地を目の当たりにし、将来像が見えにくかったのも事実です。この土地が景観条例で規制されており、さらに北側はラムサール条約での規制もかかった土地であることが判明し、高さ制限、外観制限などの厳しい制約を受けることとなることも難題のひとつでした。土地整備のために下水道を約200m増設したり、外観の審査に文化庁の専門家会議が関与したりと、次から次へと難問が降りかかったのも今となっては懐かしく思い返せます。本年8月に新病院が完成しその落ち着いた佇まいを見るにつけて、私が着任してからの3年半に思いを馳せ、安堵のため息が漏れるのも推してしかるべきでしょう。

新病院は高さ制限のために3階建てとなっており、1階は外来、救急処置室、検査科、放射線科、栄養科、医事課、地域療養支援部、ホスピス病棟（16床）のほかチャペルがあり、病院入り口左には売店を配しております。コンパクトに設計されており、健診でお越しの方にも快適な動線となっております。ホスピス病棟は水郷側に位置し、広い個室空間での療養を提供いたします。

2階は回復期リハビリテーション病棟（60床）とリハビリ室（県下最大級）、管理棟および屋上庭園となっており、水郷・西の湖を望む眺望での療養が可能となっております。屋上庭園にはスロープや段差も設けており、天気の良い日には屋外でのリハビリテーションも行われることでしょう。

3階には一般病棟（急性期18床、地域包括ケア32床）と医療療養病棟（42床）、薬剤科と手術室を配置しており、感染病床にも対応できる病床を4床（最大8床）有しております。新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中、また今後の新興感染症に対応できるべく準備しております。

診療面においては、CT、MRI等の画像診断装置を新調し機能的MRI診断にも対応できれば良いと考えております。また脳波検査装置を新設しましたので診療の幅が広がることを期待しております。われわれヴォーリズ記念病院は新病院としてスタートしました。これからも地域の方の療養の手助けができることに感謝し、幸せな結果が得られますように切に願っております。

チャプレンだより⑳ 「新病院チャペルの十字架②」

チャプレン 中村信雄

新病院のチャペルに十字架を設置する前のことです。病床上に伏しておられる方々をお訪ねしたとき、十字架との縁を感じました。「お持ちしましょうか」とお尋ねすると頷かれました。

最晩年、細くなった手を伸ばし、十字架に触られた方がおられます。子どもの頃、礼拝堂の近くでヴォーリスさんと会い、チューイングガムをもらったそうです。そのときを思い出して目を閉じ、「ヴォーリスさん、助けてください。」と仰いました。幼子の祈りのように。

小さく震える手で十字架を抱いてくださった方もおられます。お祈りさせていただくと、声を出しづらいのに精一杯、「アーメン」と唱和されました。神様はきっとその方の心の中にある言葉にならない一つひとつの思いを聴いてくださったことでしょう。

私たちの人生には、神様の愛に触れなければいやされない痛みがあるのだと思います。神様の愛（十字架）に触れ、そのぬくもりを感じていただければ幸いです。



部署紹介

医療安全管理室

看護師 森 啓一

ヴォーリスだよりが手元に届く頃には、新病院への移転も完了している頃でしょうか。

医療安全管理室では、全部署より報告いただいているインシデントレポートを元に、要因分析と再発防止を支援していく活動をしています。人のエラーを追求するのではなく、根本原因を探し出し、エラーが発生しにくい環境づくりと、手順やマニュアルを見直すことが基本となります。

医療安全管理委員会、週1回の推進カンファレンス、リスクマネジメント部会で事例に向き合い、部署の垣根を越えて、対策の検討をしています。すぐに解決する課題ばかりではないので、事例が発生するごとに振り返り、見直し、対策を立てていく課程を蓄積していくことが大事です。

患者様・ご家族にとりましては、コロナ禍で思うような入院生活ではなくやきもきされていることと思いますが、転倒されたり、些細な変化があった時でもこまめに伝えていくことが信頼につながります。患者様・家族様が私たち医療者とともに参加できる、参加型の医療でありたいと考えます。

医療安全に関すること、何でもご相談いただければと思います。

「令和4年2月 院内BLS研修」
AED操作や救命処置の様子

BLSとは・・・
心肺停止または呼吸停止に対する一次救命処置のこと。
正しい知識と適切な処置の仕方さえ知っていれば誰でも行うことができます。



特集

11月1日より新しい土地に病院を新築移転しました！

新病院のデザインコンセプトは【原点回帰】。ヴォーリズ記念病院の原点でもあるツッカーハウス（現病院の前身：近江療養院）の色調やディテール、モチーフを採用し、近江八幡市の里山の風景に溶け込む景観づくりにも工夫しました。

今後も地域に根差した病院として歩み続けるよう新たなスタートを切りました。



南からの景色



東からの景色



2階の屋上庭園



【原点回帰】

1918年開設、近江療養院



1階のラウンジ



リハビリテーション室



病室からの景色



病棟スタッフステーション前の談話室



チャペル

特集

竣工式・内覧会の様子

2022年10月10日（月・祝）、新病院竣工式を執り行いました。
多くの御来賓の皆様、並びに関係の皆様にご出席いただきました。



院長 五月女 隆男



理事長 三ツ浪 健一



W.M.ヴォーリズの建築思想
「**建築の風格**は人間の人格と同じく、
その外見よりもむしろ**内容**にある」



設立後100余年、地域の皆様が安心して、自分らしく生きがいを持って暮らし続けて頂けますよう、これからも地域の皆様とともに奉仕していく病院として歩んでまいります。



特集

新しく出来る検査のご紹介

この度、新病院の開院に伴いまして、新たに可能となる検査、最新の装置を導入しました。

「CT・MR検査」

放射線科 川嶋 勇次

<CT特長>

- ①造影検査を従来より負担を軽減することができます。熱感等を感じていたものを軽減し、より患者様へ安心安全な検査を提供します。
- ②従来のCT装置よりも被ばくを低減することができます。CT肺がん検診の運用をレントゲンの被ばくに近い被ばくで実現します。
- ③レントゲンの撮影体位が難しい患者様でも、被ばくが少ないCT撮影により負担の少ない検査を実現します。
- ④検査室内で患者様へ寄り添った検査を行うことができます。患者様へ安心に検査を受けて頂く新しい機能を搭載しています。



SOMATOM go.Top 64列



MAGNETOM Semprra 1.5T

<MR特長>

- ①従来のMRI装置と比べ、磁場強度が強くなる事で信号値が上がり詳細な病変にも対応できるようになりました。
- ②歪みや変形の少ない検査が可能となり、梗塞や腫瘍などの描出能改善が期待できます。
- ③人工知能（AI）の技術により、安定性・再現性の高い効率的な検査を可能とし、患者様の負担も軽くなります。
- ④省電力、省資源に配慮した環境に優しいMRIシステムです。

「画像提供：シーメンスヘルスケア株式会社」

「脳波検査」

臨床検査科 鯉江 賢二

脳波検査について、技師の立場から説明させていただきます。

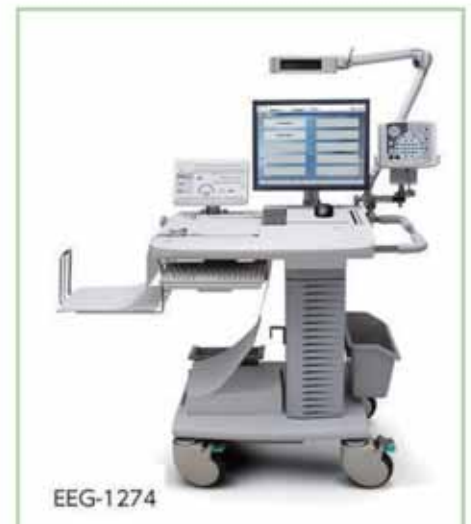
脳波はその活動状態によって微小な電気を出しています。脳波は大脳皮質の表層に生じる電位変動を頭皮上の電極から記録したものです。

検査の目的は脳の機能的異常、器質的な障害を明らかにするために、該当するものに、てんかん、脳腫瘍、睡眠の評価、意識障害、脳血管障害 等が上げられます。

波の形には多少、個性があり、どのような波形がでているか、左右差がないか、突発波がみられないか、などを見ていきます。

検査はベッド上で頭部にクリーム状のペーストをつけて電極を装着し、安静・閉眼・覚醒状態で記録を行います。必要に応じて目の開け閉め、光の点滅刺激、早く大きな呼吸を切り返し、睡眠、薬剤負荷などを行いながら記録することがあります。検査自体は30分程度ですが電極を付けたり、終わった後に拭き取る時間もあわせて、1時間を目安に検査をします。

脳波検査は大脳の表面から発生する微小な電気を取り出す検査ですので、電気をかける検査ではありませんし、痛みもありません。また、食事の制限もありません。できるだけ楽な気持ちで受けていただけたらと思います。



EEG-1274

人類と感染症との闘い

院内感染対策委員会 医師 奥野 貴史

2019年12月、中国・武漢で発生した新型呼吸器感染症に関しWHOが調査を開始、2020年2月にCOVID-19と命名され、それから2年7か月が経過した。

日本では6つの大きな波が起きては終息する、を繰り返し、今、第7波の中にいる。厚労省のデータから読み解くに、第1波は感染者16,445人に対し死亡者846人であり死亡率は5.1%であった。以後は感染者数、死亡者数、死亡率を列記する。第2波：62,671人、673人、1.1%、第3波：381,359人、7,101人、1.9%、第4波：322,745人、5,829人、1.8%、第5波：942,799人、3,892人、0.41%、第6波：7,434,500人、12,788人、0.17%。第7波は9/9の時点で感染者10,739,621人、死亡者11,093人、死亡率0.10%。波が進むごとに死亡率は下がる傾向にあり、その要因としては医療者の治療経験値が上がってきたこと、ワクチン接種が進んだこと、治療薬が整備されてきたこと、が挙げられる。

さて、今後の見通しである。国内の感染者数は延べ人数で2,000万人を超えた。治療薬であるモルヌプラビル（ラゲブリオ）が他の薬剤と同様、どこの薬局でも処方可能になった。また、オミクロン株に対応したワクチンも9/12に特例承認された。9/26以降は全数把握も見直される方向にある。何よりもCOVID-19による死亡率が季節性インフルエンザの死亡率に0.05%～0.1%に近似してきた。ウイルスが変異を続ける一方で、人類の叡智はこのウイルスとの共存の道を見つける方向にあると思われる。

この40年に限っても、C型肝炎ウイルス、HIVウイルス、MRSAなど、人を死に追いやる病原体を見つけては新薬を作りだし共存できる道を見つけてきた。ただ、それでも大切なことは、過去の感染症対策と同様に一人一人が感染を予防し、罹患した場合は拡大させないよう自覚をもって行動することであろう。（なお、文章中の数値は9/9時点のものである。）



生老病死というけれど

いのちの臨床家（ホスピス医） 細井 順

「諸行無常、盛者必衰」

これは平家物語の冒頭にある言葉です。病気を患い、治療を続ける中で、このような一節を思い浮かべる時があります。がんばってもがんばりきれないとき、心に去来することは、これから先についての不安や怖れです。苦しまないかということです。

このような思いは誰にでも沸いてきます。医者とか患者とか関係なしです。今は偉そうにしている医者でも、自分の番が来たら誰でも眠れない夜を過ごします。

ホスピス（緩和ケア）はラテン語の「あたたかなおもてなし」という意味のことばに由来します。ここには、人間には避けることのできないある一時期を無難に乗り越えるために先人がつちかってきた知恵があります。死の前では、人間は誰でも同じです。大切なことは、切ない、やりきれない気持ちを分かち合い、生死をこえたいのちに気づくことです。

そうしていると、不思議と短い限られた時間だからこそという、新たな生き方が見えてきます。そのようにして、人は死を乗り越えてきました。

「ひとは生きてきたように死んでいく」と言われます。生老病死は人間のたどる道筋を示しています。そこから目をそらさないことが、苦しまない日々へとつながっていきます。



管理栄養士ようちゃん
からのご案内！



新調理システム

「ニュークックチルシステム」導入しました！！

11月より新病院での診療が始まりました。この中で栄養科は一つの大きな転機を迎えました。先人達の培ってきた、技術や経験を礎に「ニュークックチル」という新しい調理システムにて給食業務を運営しております。

今回はニュークックチルとはどのようなものなのかお話をさせていただきます。

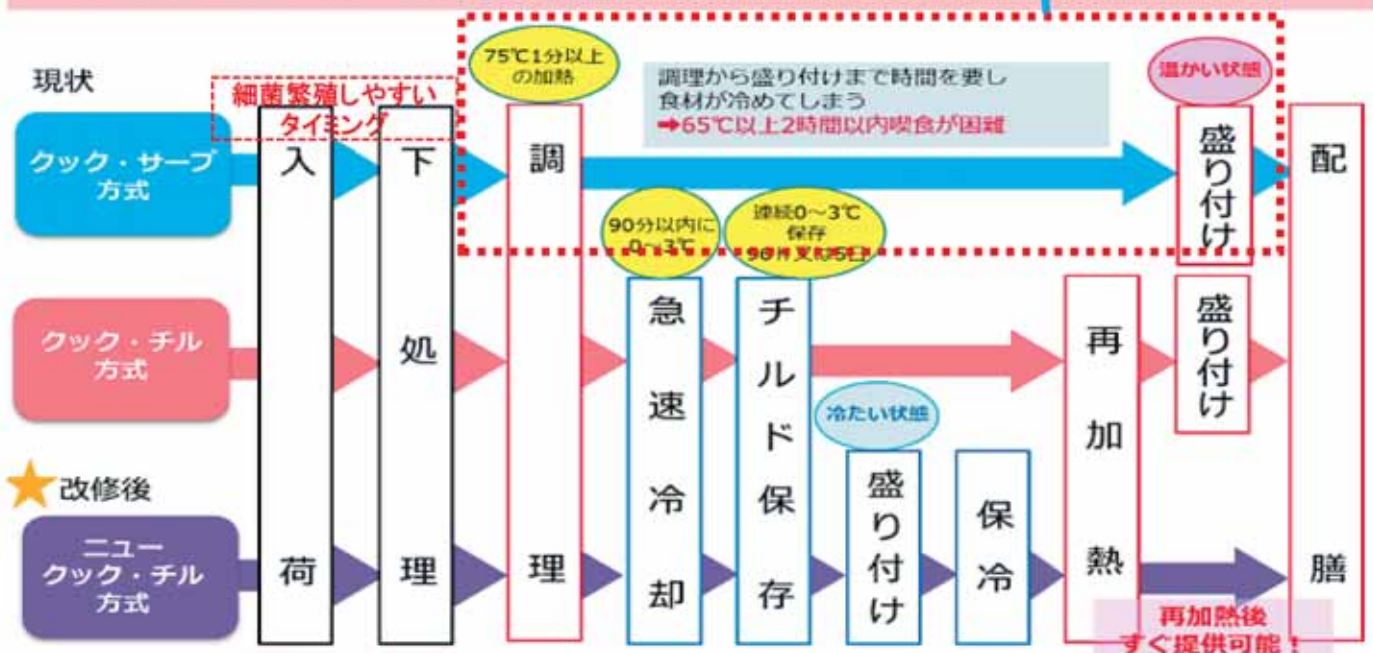
従来の調理システム「クックサーブ」と「ニュークックチル」の違いとは？

私たちの様な病院や施設などの集団給食を運営する場合、「HACCP」という食中毒や感染症を予防するための衛生管理の方法や基準を遵守することが決まっています。これを遵守することが従来の「クックサーブ」という方法では難しく、食事の質も保ちにくい側面があります。

<従来のクックサーブシステムのデメリット>

クックサーブとは調理したものを盛り付けて患者様の元へ配膳するシステムになります。このシステムは調理⇒盛り付け⇒配膳の過程が長く、料理が冷めてしまいます。また、食中毒菌などの繁殖しやすい温度帯の時間が長く、衛生面が保ちにくいです。これらに対して保温カートで高い温度を保つなどの工夫もしますが、調理されてからの時間が長く、クオリティーの低下と食品汚染の可能性は避けられません。

各方式による提供までの流れ（入荷～提供）



これがニュークックチルになると...

ポイント その1 「適温な食事を！！」

出来立ての料理を急速冷却してチルド保存したものを再加熱してすぐに配膳と工程が短く、より温かい状態で配膳が可能になります

ポイント その2 「より安全な食事に！！」

ニュークックチルは調理後、直ちに急速冷却して冷たいまま盛り付けを行うため細菌繁殖がしにくく衛生面を保ちやすい。

次回は...ニュークックチルを支える最新の調理機器を紹介致します。

メディカルフィットネスセンターだより

所長 久保 大志

このヴォーリスだよりが皆様のお手元に届いている時にはヴォーリス記念病院は新しい場所へ移転をして新たな船出が始まったばかりです。

メディカルフィットネスセンターは

2006年 近江八幡の駅前にあった平和堂の5階にテナントを借りて営業をスタート

2014年 ヴォーリス老健センターの1階内へ移転をして営業中

今後、日程は未定ですが旧ヴォーリス記念病院の東館3階へ移転をする計画を立てております。非常に景色が良く、陽光がたっぷり降り注ぐ環境です。スペースも広く、運動するにはこの上ない場所となります。

これからも沢山の皆さまに気軽に楽しく運動をしていただける場所として営業を続けていきます。移転についての詳細は決定次第順次お知らせをしていきます。



公式ラインアカウント
QRコード

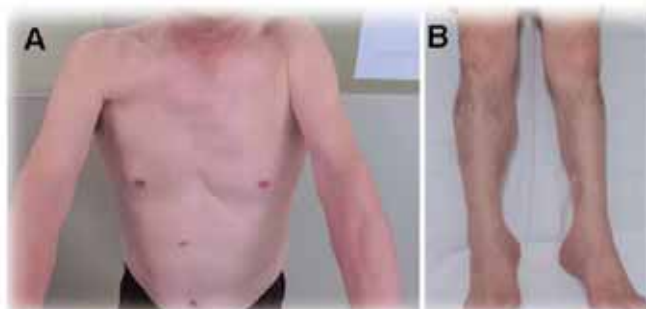


論文紹介コーナー

「不顕性感染からのポストポリオ症候群」

医師 前田 憲吾

数年来の左上腕・左下腿の筋萎縮があり、他院で診断がつかない方が来られました。脊髄MRIでは症状を説明できる病変がありませんでした。感覚障害はありませんでした。症状の進行は止まっていた。同胞にポリオの方がおられ、患者さんも血清ポリオウイルス中和抗体が増えていました。この方はポリオワクチンを受けていないので、幼少時にポリオ不顕性感染を起こし、脊髄の運動ニューロンには麻痺を起こさない程度のダメージがあったと考えられ、筋電図でもそれが裏付けられました。加齢や運動負荷によりポリオ発症から数十年後に麻痺と筋萎縮が起こるのがポストポリオ症候群です。非対称の筋萎縮のある症例では、ポリオ既往歴の有無に関わらず、ポストポリオを疑うことも必要です。



初診時の写真

Maeda K, Sugihara Y. Postpolio syndrome from non-paralytic poliovirus infection. Intern Med (in press) 「ポリオの会ニュース」第5726号に二次掲載されました。

病院からの お知らせ

◆ 糖尿病及び生活習慣病教室のお知らせ

シリーズで偶数月に糖尿病、生活習慣病に関して、病気の知識や治療法に関する教室を開きます。詳しくは管理栄養士か外来看護師あるいは担当医師にお尋ねください。

日時 2022年12月13日(火) 11:30~12:30

場所 研修室 (※日程・時間変更の場合あり)

講師 医師

※主治医の指示のもとに参加できますが、あらかじめお申込みが必要です。

※新型コロナウイルス感染予防の観点から、食事は当面の間中止致します。



◆ インフルエンザワクチン接種 予約受付中

(予約電話) 0748-32-5211

(予約受付時間) 14:30~16:30

(接種時間) 15:00~1時間程度

接種期間: 2022年10月11日~2023年1月31日

近江八幡市介護予防拠点事業

◆ 2022年度 ヴォーリス介護予防教室のご案内

テーマ:『コロナに負けないからだところの維持』(年間5回・木曜日開催)

回数	月日	担当	内容	
4	11/24	ヴォーリス記念病院	高齢者の食事・栄養について	管理栄養士 坂本 陽介氏
5	2/16	ヴォーリス老健センター	折り紙で季節を感じましょう	介護福祉士 福永 紗安佳氏 徳岡 史也氏

ー 日程、講師など変更の場合もございます。最新情報はホームページでご確認ください。ー

- ①対象者 おおむね65歳以上の方 定員:15名
※新型コロナウイルス感染症に対する感染予防に配慮して人数制限をしております。
- ②場所 アンドリュース記念館(旧Y M C A会館) ※近江八幡市為心町中31番地(近江八幡教会の隣)
- ③開催時間 14:00 ~ 16:00
- ④参加費 無料
- ⑤申し込み 往復ハガキで ①住所 ②氏名 ③年齢 ④連絡用電話番号 を記入の上
〒523-0806 近江八幡市北之庄町492 ヴォーリス記念病院内
介護予防教室係 まで (単月の申し込みも受付します。)



【お問い合わせ】 ホームヘルプステーション ヴォーリス
担当 中上 (TEL: 0748-32-7130 / FAX: 0748-36-5458) まで

◆ 「ライラックの日」のご案内

~大切な方を亡くされたあなたへ~

「ライラックの日」は、ヴォーリス記念病院ホスピスで大切な方を亡くされたご遺族の方が、スタッフと思い出や近況を語り合うことで、共に悲しみを分かちあい、生きていくための励みや支えになればという思いで開催している集いです。

当院ホスピスでは、5月から毎月第4または第5水曜日を「ライラックの日」としています。

ゆっくりスタッフとお話ししてみませんか? どうぞ、お気軽にお越しください。

【お手続き】

- ・ご遺族様2人までの予約制
- ・お電話でのお申し込み
- ・時間帯: 13時~14時 ・14時~15時 ・15時~16時

【お問い合わせ】

ヴォーリス記念病院 ホスピス
0748-32-5211 (代表) (9時~17時)



「ライラックの日」のネーミングについて

ライラックの「若き日の思い出・初恋の感動・友情」といった花言葉にちなんでつけました。大切な人との思い出や分かち合った感動、守ってきた友情を、いつまでも大事にしていきたいという願いがこめられています。

〒523-0805 滋賀県近江八幡市円山町927-1

電話 : 0748-32-5211 (代表)

FAX : 0748-32-2152 (代表)

*シャトルバス(無料送迎)あります。

●編集後記●

新病院が完成しました。周りは水郷、ヨシの群生、山々に囲まれた自然豊かな景色です。近江八幡市の優しくどこか懐かしい景観の一つに溶け込み、地域の皆様にも長く必要とされる病院となるよう心新たに努めたいと思います。

【編集・発行】 公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 企画渉外課

公益財団法人 近江兄弟社 ヴォーリス記念病院